

平成24年度鳥取県立皆生養護学校幼稚部教育課程

(1) 幼稚部教育目標

『一人一人が輝く子どもの育成』
～せんせいだいき がっこうだいき～

(2) 重点目標

- ・初めての集団生活を通して幼児の自主性・社会性の育成を図る。
- ・保護者や外部専門家との連携を密にし、幼児の個に応じた指導の充実を図る。

(3) 教育課程編成にあたって

- ① 幼児の実態により、単一障がい学級と重複障がい学級の教育課程を編成する。

単一障がい学級	重複障がい学級
幼稚部教育要領に示す「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」と「自立活動」の6領域を統合して指導する。	複数の種類の障がいを併せ有する幼児を対象とし、「自立活動」の内容に重点において、5領域との関連を図りながら指導する。

- ② 遊びを通しての指導を中心に行い、ねらいが総合的に達成できるようにする。

- ③ 「自立活動」については、単一障がい学級、重複障がい学級共に幼児の心身の障がいの状態や発達、経験の程度などに応じた課題を設定し、日常的に幼児の活動の中に取り入れていくものとする。また、幼児の実態に応じては個別に指導の時間を設定するものとする。

- ④ 生活経験や発達の過程などを考慮して、4歳児、5歳児合同の保育形態をとる。

(4) 教育週数と教育時間

4歳児	39週	教育時間は、原則として4時間程度とする。
5歳児	38週	

(5) 週時程表

時間	曜日	月	火	水	木	金
8:35		登校、健康観察、出席カードのシール貼り、天気調べ、リラクセーション、体操、遊び など (個別)				
9:35		朝の会 (挨拶、歌、ふれあい遊び、遊具遊び) (集団)				
		遊び (個別または集団)				
11:20		片付け 給食 (11:30 施設入所児下校) リラクセーション、絵本の読み聞かせ、遊び 帰りの会 (歌、挨拶など) 自宅通学生下校				
12:45						
13:00						

* 個別に自立活動、総合療育センターでの訓練 (希望者)、水分補給、排泄等の時間を設ける。

* 小学部と合同で活動する時間を設ける。

* 実態に応じて保育時間中に親子ふれあい遊びの時間を設ける。

* なかよし教室 (教育相談) を週1時間程度設ける。

(6) 幼稚部 年間行事計画

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
年間行事計画	着任式 始業式 入学式 身体測定	避難訓練 校外保育	皆生スポレク祭	終業式	始業式		避難訓練 皆生・ブライト・ フェスティバル		終業式	始業式		修了証書 授与式 修了式 離任式

(7) 重複障がい学級 年間指導計画

年間目標		・幼稚部での生活に慣れ、安心して過ごす。 ・自分の思いを自分なりの方法で表す。 ・教師とのつながりをもとに、まわりの人や物への興味、関心をもつ。										
発達段階		0 歳相当				1 歳相当				2 歳相当		
幼児の生活する姿		・首がすわり、寝返り、腹ばいなどの全身の動き、座る、はう、立つといった運動機能が発達する。 ・なく、笑うなどの表情の変化や体の動き、喃語などで自分の欲求を表現する。 ・応答的に関わる特定の大人との間に情緒的な絆が形成され、あやしてもらおうと喜ぶなどやりとりが盛んになる。				・歩き始め、手を使い、言葉を話すようになることにより、身近な人や身の回りの物に自発的に働きかけていく。 ・物をやり取りしたり、取り合ったりする姿が見られるとともに、玩具等を実物に見立てるなどの象徴機能が発達する。 ・大人の言うことがわかるようになり、自分の意思を親しい大人に伝えたいという欲求が高まる。				・歩く、走るなどの基本的な運動機能や、指先の機能が発達する。それに伴い、食事、衣類の着脱などの身の回りのことを自分でしようとする。 ・自分の意志や欲求を言葉で表出できるようになる。 ・行動範囲が広がり探索活動が盛んになる中、自我の育ちの表れとして、強く自己主張する姿が見られる。 ・象徴機能の発達により、大人と一緒に簡単なごっこ遊びを楽しむようになる。		
ね ら い		・生理的、情緒的欲求を満たし、生活リズムを整える。 ・快・不快を発声や動作・表情などで表す。 ・身近な教・師との関わりに気づく。				・身近な教師と関わる中で安心して過ごす。 ・生活や遊びの中で自分の気持ちや要求を動作や表情などで表す。 ・教師や友だちと一緒に好きな遊びを楽しむ。				・教師の支援を受けながらできることは自分でしようとする。 ・自分の思いを表情や動作・言葉などで伝えようとする。 ・生活のいろいろな場面で教師や友だちとのやりとりを楽しむ。		
内 容	健康	・個々の実態に合わせ、外気浴、日光浴などを日課に取り入れながら生活リズムを整える。				・個々の実態に合わせ、外気浴、日光浴などを日課に取り入れながら生活リズムを整える。				・個々の実態に合わせ、外気浴、日光浴などを日課に取り入れながら生活リズムを整える。		
	人間関係	・教師のスキンシップや語りかけなどで安定した気分と喜びを味わう。				・教師や友だちと関わって遊ぼうとする。				・教師や友だちといっしょに、好きな遊びを十分に楽しむ。 ・簡単なルールのある遊びを楽しむ。		
	環境	・興味のある玩具をつかみ、見つめたり、口にしたり、振ったりして遊ぶ。				・好きな玩具に興味を持ち、遊びを楽しむ。				・身近なものの名称や、その特徴や機能に興味を持つ。		
	言葉	・快や不快を発声や動作、表情で表したり、泣き声や音声で表したりする。				・呼名や、簡単な問いかけに、自分でできる方法で応える				・「おはよう」「さようなら」のあいさつを発声や言葉、動作など自分なりの表現でする。 ・したいこと、してほしいことなどを表情や動作、言葉などで表す。		
	表現	・生活の中で様々な音、色、形、手触り、動き、味、香りなどに気付いたり、感じたりして楽しむ。				・歌やリズム遊び、指遊び、手遊びなどを楽しんでする。 ・身近な素材の感触を楽しむ。				・水、砂、粘土、紙などを使い、物を手で扱う遊びをする		
自立活動		※個に応じて内容を選定する。				※個に応じて内容を選定する。				※個に応じて内容を選定する。		
環境の構成 (教師のかかわり方		・温かいふれあい、やさしい語りかけなどを心がけ、幼児の欲求を適切に満たし、幼児との信頼関係を築くようにする。 ・抵抗力の弱い幼児もいるので、幼児の状態を十分に観察し、個に応じて接する。 ・家庭での様子や保護者の思いを聞いたり、学校での様子を具体的に知らせたりする中で、相談しやすい関係を築いていく。(連絡帳、お便り、送迎時の対応など)				・一人一人を温かく受け入れ、安心感を持たせ、どんな小さなサインでも敏感に対応する。 ・笑ったり泣いたりする子どもに優しく応えながら喃語を受け止め、発語の意欲を育てる。 ・家庭での様子や保護者の思いを聞いたり、学校での様子を具体的に知らせたりする中で、相談しやすい関係を築いていく。(連絡帳、お便り、送迎時の対応など)				・一人一人を温かく受け入れ、安心感を持たせ、どんな小さなサインでも敏感に対応する。 ・戸外遊びを十分に行い、身近な自然の素材や生き物、乗り物などに接して楽しむ機会を持ち、外界への関心を広げるようにする ・家庭での様子や保護者の思いを聞いたり、学校での様子を具体的に知らせたりする中で、相談しやすい関係を築いていく。(連絡帳、お便り、送迎時の対応など)		

(8) ① 4 歳児単一障がい学級 年間指導計画

年間目標		・ 幼稚部生活に慣れ、楽しんで活動に取り組もうとする。 ・ 自分の思いを言葉で伝えたり、様々な活動で表現したりする。 ・ 教師や友達と一緒に活動する楽しさを味わう。			
期		I	II	III	IV
月		4 ・ 5	6 ・ 7	8 ・ 9 ・ 10 ・ 11 ・ 12	1 ・ 2 ・ 3
主 題		たのしいようちぶ	ともだちができたよ	いっしょにあそぼう	たのしくあそぼう
幼児の生活する姿		・新しい環境での生活が始まり、周囲の変化に不安を抱いたり、母子分離不安の続いたりする幼児もいる。 ・周囲の様子が少しずつわかり、自分で好きな遊びを見つけることができる。	・学校生活にも慣れ、自分なりの動きが活発になる。 ・新しい遊びに進んで参加しようとしたり、友達の遊びに興味を持ったりする。	・夏休み明けに疲れを出す幼児もいるが、1学期に比べ一段とたくましさが出てくる。 ・友だちと関わる姿が多く見られるようになる。	・幼児一人一人の興味が広がり、新しい経験や活動に意欲的に取り組むようになる。 ・教師や友達のしていることをよく見ていて、自分の遊びや考えに取り入れるようになる。
ね ら い		・喜んで登校し、新しい生活環境に慣れ、教師に親しみ、安定感を持って生活する。 ・自分のやりたいことを見つけ、教師や友だちと楽しく遊ぶ。	・遊びや生活の中で出会う様々な事項に驚きや感動を味わう。 ・自分の思いや考えを言葉や態度で表す。 ・友達とのふれあいながら、一緒に楽しく遊ぶ。	・いろいろな遊びに喜んで取り組み、経験を広げようとする。 ・関わりを通して、相手の気持ちに気づき、思いやりや感謝の気持ちを態度で表現する。 ・遊びや活動の中で友だちとふれあい、つながりを深める。	・いろいろな遊びに興味を持ち、自分なりの力を発揮して活動に取り組もうとする。 ・友だちとの関わりを深め、感じたことやイメージしたことを様々な方法で表現して伝える。 ・きまりを守って、より良い生活習慣を身に付け、進級することへの自信につなげる。
内 容	健康	・学校での生活の流れを知る。	・いろいろな遊びの中で十分に体を動かす ・持ち物の始末など、自分でできることは自分でしようとする。	・健康な生活に必要な習慣を身につける。――→	――→ ・遊びや活動を楽しみながら、最後までやり通す。
	人間関係	・食べる喜びや楽しさを味わう。――→ ・教師とのふれあいを中心にしながら、まわりの友だちと一緒に過ごすことを楽しむ。	・教師や友だちとふれあって遊ぶ楽しさを味わう。	――→ ・友だちと一緒に遊びや活動する楽しさを知る。 ・簡単なきまりやルールを守って遊ぶ。	・人からの親切に気づいたり、友だちの良さを見つけたりすることで自分からも関わろうとする。
	環境	・学校の遊具や用具に親しみ、安全な遊び方や使い方を知る。 ・戸外で身近な自然にふれて遊ぶ。	――→	・遊具や用具の扱い方に慣れ、自分の遊びに必要なものを自分で考えて使おうとする。 ・自然の美しさに触れ、感動したり自然物を使って遊んだりすることを楽しむ。	・冬の自然事象に興味・関心を持ち、関わって遊ぶ。
	言葉	・したいこと、してほしいことを教師に表情や動作や言葉で伝える。 ・絵本や紙芝居を見たり聞いたりして楽しむ。	・身近な自然物に触れて遊びながら、よく見たり、親しみを持ったりする。 ・教師や友だちの話を親しみを持って聞く ・日常生活に必要な言葉の使い方に気づく。	・自分のしたことや、見たこと、感じたことを教師や友だちに身振りや言葉で表現して伝える。――→	――→
	表現	・音楽に触れ、歌を歌ったり楽器を鳴らしたり動いたりして楽しむ。 ・身近な材料に親しみ、その感触を楽しむ――→	――→	・音楽に合わせて体を動かし、感じたことを表現する楽しさを味わう。――→	――→
	自立活動	――→	・身近にあるいろいろな素材を生かして表現する。――→	――→	――→
	※	※個に応じて内容を選定する。――→	――→	――→	――→
環境の構成 (教師のかかわり方)		・教師は個々の幼児とふれあいを多く持ちながら、一人一人を温かく受け止め、安心感を持つことができるようにする。 ・教師自身の楽しそうに遊ぶ姿から幼稚部生活の楽しさや生活の仕方を伝える。 ・学校が楽しい場であると感じられるように幼児の興味・関心のある環境を整える。 ・家庭での様子や保護者の思いを聞いたり、学校での様子を具体的に知らせたりしていくなかで、相談しやすい関係を築いていく。(連絡帳、おたより、送迎時の対応など)	・一人一人の幼児の理解に努め、その気持ちを認めながら信頼関係を深めるようにする。 ・自然と十分にふれあいが持てるように、栽培物などを整備する。また、地域の水田、海などを適切な時期に利用し、経験の幅を広げさせる。 ・遊びの環境は幼児の興味の動向をよくつかんで構成し反応を見ながら再構成する ・日々の様子を密に伝えあい、健康・安全に過ごせるように配慮する。	・教師の直接的な介入から徐々に幼児同士の関わり合いを尊重し、自分たちで活動する喜びがわかるように援助する。 ・教師自身がまわりの事象を敏感に受け止めることによって幼児の感性を育むようにする。	・一人一人を認めて、自信を持って活動できるようにする。 ・休み明けは、家庭で遊んだ経験が共通のものとして広がるように、遊具や遊びのコーナーを整え、自分たちで遊べるようにする。――→
				――→	――→

② 5 歳児単一障がい学級 年間指導計画

年間目標		・ 幼稚部生活を楽しみ、教師や友達との関わりを深める。 ・ 感じたことや考えたことを自分なりに表現する。 ・ いろいろな活動や遊びを活発に行おうとする。			
期		I	II	III	IV
月		4 ・ 5	6 ・ 7	8 ・ 9 ・ 10 ・ 11 ・ 12	1 ・ 2 ・ 3
主 題		あたらしいともだち	みんななかよく	ちからをあわせて	おおきくなったね
幼児の生活する姿		・ 年少組からのつながりのある友だちと遊ぼうとする。 ・ 年少児の世話をするなど、自分から人やものにかかわろうをする。	・ 外界に対して自分から進んで関わろうとする。 ・ 身の回りの自然事象や事物に対して、興味や関心が高まる。	・ 生活経験が広がり、表現方法が豊かになる。 ・ 知的好奇心や探究心が高まり、環境への働きかけも多くなる。 ・ 友だち同士のやりとりが多くなる。	・ 生活や活動に見通しがつくようになり、物事に積極的に取り組む。 ・ もうすぐ 1 年生になるという自覚が強まり年長児らしい行動が見られるようになる。
ね ら い		・ 新しい環境に慣れ、友だちとの遊びを楽しむ。 ・ 自分の考えをいろいろな方法で、のびのびと表現する。 ・ 5 歳児としての自覚と喜びを育み、行事や活動に積極的に取り組む。	・ 友だちとのつながりを深め、目的をもって遊ぶ。 ・ 友だちと関わるなかで、思いを伝え合いながら遊びを深める。 ・ 自分の力を発揮して、遊びに取り組もうとする。	・ 友だちとのつながりを深め、役割を分担して、遊びや活動を行う。 ・ 人の話をよく聞き、自分の経験したことや考えたこと、感じたことを表現する。 ・ 身の回りの事象に関心を持ち、よく見たり考えたり、試したりして遊ぶ。	・ 一人ひとりが自信と自覚をもち、就学への期待を膨らませながら、幼稚部生活を楽しむ。 ・ 自分の持っている力を発揮して活動に取り組み、作り出したり、考えたり、表現したりする楽しさを味わう。 ・ 遊びや生活の中で課題を持ちそれに向かって意欲的に活動する。
内 容	健康	・ 戸外で体を動かして遊ぶことを楽しむ。 ・ 食べる喜びや楽しさを味わったり、食べ物への興味を持ったりする。	→	・ いろいろな運動に意欲的に取り組み、充実感を味わう。	→
	人間関係	・ 年長組としての自覚を持ち、友だちとの遊びを楽しむ。	・ いろいろな運動の仕方を知り、ルールを守って、楽しく取り組む。	・ 友だちとの役割を分担しながら、協力して遊んだり、活動をしたりする。	・ 自分の役割を受け持って、活動に参加する。
	環境	・ 戸外の身近な自然に接し、動植物の成長や変化に興味を持つ。	・ 動植物をいたわり、世話をして成長を楽しむに待つ。	・ 身近な自然に触れ、季節や生活の変化に気づくとともに、自然物を使ってさまざまな遊びを楽しむ。	・ 成長の自覚を持ち、入学への喜びや期待を持つ。
	言葉	・ いろいろな体験を通じて、イメージや言葉を豊かにする。 ・ 伝えたいことや、要求を教師や友だちに身振りや言葉で表現して伝える。	→	→	→
	表現	・ 感じたことを描いたり、作ったりして、自由に表現する。 ・ 友だちといっしょに楽しく歌ったり、楽器を鳴らしたりすることを楽しむ	・ 見たこと、考えたことをいろいろな材料を使ってのびのびと表現する。	・ 日常生活の中で数量や文字に関心を持ち数えたり、比べたりする。 ・ 生活の中で使う言葉の意味がわかり、会話を楽しむ。	・ さまざまな出来事の中で、感動したことを伝え合う。
	自立活動	→	・ リズムに合わせて身体表現を楽しむ	・ いろいろな素材を使い、立体的な製作に取り組む	→
		※個に応じて内容を選定する。	→	→	→
	環境の構成 (教師のかかわり方	・ 年長児になった実感が持てるように環境を工夫するとともに、子どもにも環境作りに参加するようにする。 道具・用具などの安全を点検し、安全に使うことができるようにする。 ・ 個々の心の動きや活動を見守り、安定して生活できるように接する。 ・ 懇談や日々の連絡を通して家庭と家族との信頼関係を築いていくようにする。	・ 集団遊びの中で自分の力が十分に発揮できるような助言や援助をする。 ・ 遊びがより発展するよう、材料や用具の種類、提示の方法や場の設定を工夫する。 ・ 季節感が味わえるように、室内、室外の環境を整える。	・ 一人一人の知的好奇心や探究心が満足できるように、豊かな環境を用意する。	・ 小学部児童と触れ合う機会を多くし、入学への喜びや期待感を持つことができるようにする。
				・ 生活の中で、必要に応じて文字や数字などを書き表して提示する。	→
					→

